

県美プレミアム

2014.7.19^土 - 11.9^日

《館外作品を中心とした小企画展》

美術の中のかたち 一手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」



1.横山裕一 《ふれてみよ④(強風) (別バージョン)》 2014年 © Yuichi Yokoyama



《収蔵品によるテーマ展》

鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

- 展示室 1 鳥と獣たちの祭
- 展示室 2 対決—新旧時代小説挿絵
- 展示室 3 北 大型版画の世界
- 展示室 3 南 女性彫刻の競演

12.エミール=アントワヌ・ブールデル 《母と子》 1893年

県美プレミアム

《館外作品を中心とした小企画展》

美術の中のかたち—手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

《収蔵品によるテーマ展》

鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

開催趣旨

この度の「県美プレミアム」には大きな見所が二つあります。

一つ目が、毎年この時期に開催している、手で触れて鑑賞する小企画「美術の中のかたち—手で見る造形」展です。25回目となる今回は横山裕一（よこやま・ゆういち 1967年宮崎県生）氏を出展作家に迎え、当館所蔵の彫刻作品とのコラボレーションを試みます。（展示室4）

二つ目は、昨年度新たに当館に所蔵された作品を特集する「鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて」です。展示室1、2、3の三室を使い、新収蔵作品をそれらと関連性のある既存の作品とともに展示し、ますます充実していく当館のコレクションの一端を紹介します。

会期等

2014年7月19日（土）～11月9日（日）

休館日：月曜日（7月21日、9月15日、10月13日、11月3日は開館、7月22日、9月16日、10月14日、11月4日は休館）

開館時間：午前10時～午後6時

特別展開催中の金・土曜日は夜間開館（午後8時まで）

※入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館 常設展示室（1階・2階）

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館時代より40年余り作品収集を行い、これまでに収蔵された作品数は9000点以上に及びます。

当館1階と2階の展示室では、「県美プレミアム」（旧称コレクション展）と題し、年3度の展示替えを行いながら、《収蔵品によるテーマ展》・《館外作品を中心とした小企画展》を開催します。

その他、神戸ゆかりの洋画家、小磯良平と金山平三の記念室、さらに海外の近・現代彫刻／安藤忠雄コーナーとあわせてお楽しみください。

展示室1～3

《収蔵品によるテーマ展》

鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

- 展示室1 鳥と獣たちの祭
- 展示室2 対決—新旧時代小説挿絵
- 展示室3北 大型版画の世界
- 展示室3南 女性彫刻の競演

展示室4

《館外作品を中心とした小企画展》

美術の中のかたち—手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

展示室5

近現代の彫刻／安藤忠雄コーナー

展示室6

所蔵名品選

小磯良平記念室

金山平三記念室

観覧料

観覧料	当日	団体	セット
一般	510円	410円	306円
大学生	410円	330円	246円
高校生	260円	210円	156円
65才以上	255円	205円	153円
中学生	無料		

団体料金……20名以上の料金

セット料金……特別展とのセット割引料金

※障がいのある方とその介護の方1名は無料

※9月30日（火）まではクールスポット指定期間として、各観覧料金の半額となります。

《館外作品を中心とした小企画展》

展示室 4

美術の中のかたち—手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

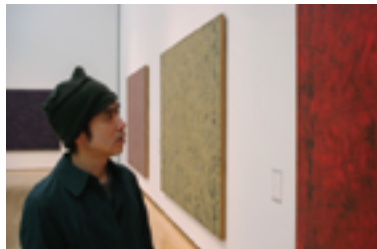
Form in Art

Yuichi Yokoyama exhibition: This is that, touch it.

兵庫県立美術館は平成元（1989）年度より「美術の中のかたち—手で見る造形」展を開催してきました。この展覧会は、視覚に障がいをもつ人にも美術館に来ていただきたいという思いと、作品に手で触れて鑑賞をすることにより、視覚にかたよりがちな美術鑑賞のあり方を問い直すことを目的としたものです。25回目となる今回は横山裕一（よこやま・ゆういち 1967年宮崎県生）氏を出展作家に迎え、当館所蔵の彫刻作品とのコラボレーションを試みます。視覚、触覚、想像力という三つの領域を使って楽しむ本展は、これまでにない新鮮な美術体験をもたらしてくれるでしょう。

横山裕一

1967年4月3日宮崎県生まれ。武蔵野美術大学油絵科卒業。1995年よりマンガと美術を融合させたボーダレスな作品を発表し、注目を集めた。2004年4月『ニュー土木』（イーストプレス）で単行本デビュー。その作品は海外でも評価を得ている。その他の代表作に、3人の男が列車に乗って何処かへ移動するだけという『トラベル』、不思議な庭に迷い込む『NIWA』などがある。



会期：2014年7月19日（土）～11月9日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室4

主催：兵庫県立美術館

後援：兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会

協賛：一般財団法人安藤忠雄文化財団

協力：ARATANIURANO

関連事業

横山裕一さんのアーティスト・トーク

出演：横山裕一（出展作家） 聞き手：小林公（当館学芸員）
 7月19日（土） 午後4時～午後5時30分（午後3時30分より開場）
 レクチャールームにて 聴講無料・先着順 定員100名
 共催：兵庫県立美術館「芸術の館」友の会

神戸芸術工科大学大学院特別講義

横山裕一さんのワークショップ

出演：横山裕一（出展作家）
 10月5日（日） 午後1時30分～午後4時30分
 アトリエ2にて 中学生以上（小学生以下のお子様の同伴も可）
 参加費：300円（別途観覧券も必要） 要事前申込* 定員20名
 主催：兵庫県立美術館、神戸芸術工科大学
 *申込方法の詳細は美術館のHPをご覧ください。

学芸員によるギャラリートーク

「横山裕一展について」
 8月23日（土） 午後4時～（約45分）
 1階常設展示室にて 要観覧券・定員なし

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

美術の中のかたち—手で見る造形—

担当学芸員：小林公、西田桐子
 e-mail: tkobayashi@artm.pref.hyogo.jp（小林）

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903



2.横山裕一 《ふれてみよ②〈ミロ変貌〉》 2014年 © Yuichi Yokoyama ※原画を元にレイアウト

横山裕一の新作と館蔵品によるインスタレーション。

会場に展示されるジム・ダイン、アルベルト・ジャコメッティ、ジョアン・ミロ、井田照一などの作品は兵庫県立美術館が所蔵するものの中から横山裕一氏が選んだもの。これらの作品は別のキャラクターに変身して、横山氏の作品にも登場します。会場全体のレイアウトにも横山氏のアイデアが盛り込まれており、来場された方はあたかも横山氏のネオ漫画の世界に飛び込んだような体験を味わえるはずです。

全世界注目の横山裕一氏が会場全体を「ネオ漫画」化。展示されるのは、見えるものと見えないものとさわれるものとさわれないものと想像できるものと想像を超えるもの。である。

ネオ漫画とは？

通常の漫画はストーリーを追いつつ楽しむものですが、横山氏のネオ漫画にはこれといったストーリーはありません。コマワリやフキダシ、擬音語・擬態語表現など、通常の漫画と同じ要素を用いながら、人やモノの動き、時間の推移が生み出す躍動感や快感だけを純粋にそのまま味わうことができる点に特徴があります。

横山裕一

当館所蔵の彫刻作品

Coming soon



ジム・ダイン

《植物が扇風機になる》(5点組)
アルミニウム



3.横山裕一 《ふれてみよ④〈強風〉》
2014年 © Yuichi Yokoyama



アルベルト・ジャコメッティ

《石碑I》 ブロンズ



4.横山裕一
《ふれてみよ③〈望観〉のためのドローイング(3)より(部分)》
2014年 © Yuichi Yokoyama



ジョアン・ミロ

《人物》 ブロンズ



5.横山裕一 《ふれてみよ①〈花園〉》
2014年 © Yuichi Yokoyama



井田照一

《Between Globe and Globe-
Twelve Months》
ブロンズ



6.横山裕一 《ふれてみよ⑤〈球体〉のためのドローイング(1)》
2014年 © Yuichi Yokoyama



会場全体



扇風機



7.横山裕一 《ふれてみよ③〈望観〉》 2014年 © Yuichi Yokoyama

ジム・ダイン作品と対応するものとして実際の扇風機5台を設置。
横山裕一 × 会場全体 × 扇風機 どうなるかは会場での楽しみ!

《収蔵品によるテーマ展》

展示室1・2・3

鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

昨年度新たに当館に所蔵された作品をそれらと関連性のある既存の作品とともに展示し、ますます充実していく当館のコレクションの一端を紹介します。

会期：2014年7月19日(土)～11月9日(日)

会場：兵庫県立美術館 常設展示室1～3

主催：兵庫県立美術館

展示室1

鳥と獣たちの祭

鳥や動物は、私たち人間にとって身近な存在であり、美術の世界でも常に重要な主題であり続けました。この部屋では、京都の前衛日本画グループ「パンリアル美術協会」で活躍した下村良之介(1923-1998)の《翼》と《匣》、神戸を代表する洋画家のひとり中西勝(1924-)がメキシコで描いた《豚のいる風景》など、近年新たにコレクションに加わった作品を中心に、当館の収蔵品の中から鳥や動物をモチーフにした油彩画、版画、日本画などをピックアップして展示します。それぞれの生き物の姿を写實的に描写したものから、象徴的あるいは抽象的な形で表現したものまで、生命を巡る多彩なイメージをお楽しみください。

- ・下村良之介《翼》1957年
- ・中西勝《豚のいる風景》1967年
- ・中西勝《棲まう(ソピロテ)》
- ・中山正實《牛と子》ほか



8. 下村良之介《翼》1957年



9. 中西勝《豚のいる風景》1967年

展示室2

対決—新旧時代小説挿絵

横尾忠則(1936-)が柴田錬三郎と組んで1973年に週刊誌に連載した「うろつき夜太」は、虚実を往還するテキストとイメージが相まって、通常の時代小説の枠を超えた破天荒な作品となりました。当館では、横尾の原画のうちの12点を平成12年に収蔵していますが、昨年さらに12点の寄贈を受けました。本展示ではこれらを一挙公開するとともに、時代小説挿絵の新旧対決として、石井鶴三(1887-1973)が子母澤寛の「松五郎鴉」(1933年)のために描いた挿絵原画と見比べながら、多様な挿絵芸術の一端に触れてみてください。

- ・横尾忠則《うろつき夜太 第11回 怒りと急所と》1973年
- ・石井鶴三《松五郎鴉》ほか



10. 横尾忠則《うろつき夜太 第11回 怒りと急所と》1973年

展示室3北

大型版画の世界

開館以来、国内外の版画を収集の柱のひとつに掲げてきた当館では、昨年寄贈により山口啓介の初期の代表作を取得しました。西宮市出身の山口啓介（1962-）は、大学卒業後の1990年頃に手掛けた大型銅版画で鮮烈なデビューを飾った美術家です。この部屋では、エッチングによる物質的なマチエール表現へと回帰した山口をはじめ、主に現代の作家たちが挑んだ大型版画を特集します。今なお変容を続ける版画の世界を技法の多様性や制作意図の違いに注目しながらご覧ください。

- ・山口啓介《水路一王の方舟》1990年
- ・木村秀樹《Black Swan》ほか

展示室3南

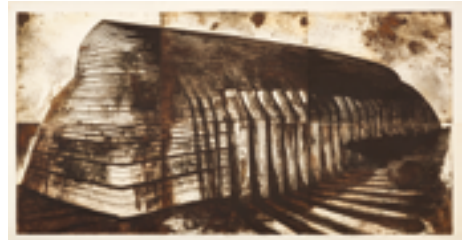
女性彫刻の競演

彫刻もまた版画と並んで重要な当館の収集の柱です。昨年は、ロダンと並ぶ近代彫刻の巨人ブールデル（1861-1929）をはじめ、その門下生として戦前・戦後に活躍した清水多嘉示（1897-1981）、さらにはイタリア20世紀彫刻の代表者のひとりファッツィーニ（1913-1987）の作品が、それぞれ寄贈によってコレクションに加われました。このコーナーでは、これらの新収蔵品を中心に、これまで当館が集めてきた女性をモチーフとする彫刻の名品を紹介します。

- ・エミール＝アントワヌ・ブールデル《母と子》1893年
- ・ペリクレ・ファッツィーニ《アクロバットの女》
- ・清水多嘉示《輝き》
- ・ヘンリー・ムーア《母子像》
- ・エドガー・ドガ《腕を前に上げて進む踊り子》
- ・木内克《女》ほか



12.エミール＝アントワヌ・ブールデル
《母と子》 1893年



11.山口啓介《水路一王の方舟》1990年

関連事業

こどものイベント 美術館探検ツアー 2014

10月11日（土） 午前10時30分～午後3時30分
アトリエ2にて 定員30名 要事前申込
こどものイベント係：TEL 078-262-0908

学芸員によるギャラリートーク

「新収蔵品について」
9月20日（土） 午後4時～（約45分）
1階常設展示室にて 要観覧券・定員なし

ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日曜 午後1時～（約45分）
エントランスに集合 参加無料・内容により要観覧券

※「美術の中のかたち一手で見る造形」展の関連事業については、3ページに記載していますので、ご参照ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

担当学芸員: 岡本弘毅・西田桐子
TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ
TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

展示室 5

近現代の彫刻／安藤忠雄コーナー

この部屋では、ロダンを始祖とする近代から現代にかけての彫刻の流れの中から、様々な人体表現を紹介します。具象的な女性像を特集した展示室3北と併せてご覧ください。

また、当館の設計者である建築家・安藤忠雄の業績の一部を模型、写真、映像などで紹介するコーナーを展示室東側に併設します。

展示室 6

所蔵名品選

昨年度新収蔵品の橋本関雪(1883-1945)の初期作品、菅井汲(1919-1996)の版画集『アクシダン』と、それらに関連する作品を展示します。あわせて、1950年代から60年代にかけての、「具体」以外の関西の美術の状況を示す作品を展示します。

- ・橋本関雪《(画題不詳)》、《霜猿》
- ・菅井汲 版画集『アクシダン』より ほか

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平(1903-1988)は、近代洋画を代表する巨匠のひとりです。確かなデッサン力に裏打ちされた人物像、とりわけ気品あふれる女性像は、現在も高い人気を誇っていますが、実は男性を描いた作品も多く手がけています。そのほとんどは、注文による肖像画ですが、モデルを使って描いた作品も少なくありません。今回の展示では、代表作《斉唱》などとともに、男性を描いた作品(素描を含む)を展示し、小磯の男性像について考えます。

金山平三記念室

神戸に生まれた金山平三(1883-1964)は日本各地を旅行して描いた風景画で有名です。金山は若い時から、四季それぞれに赴く写生地を決め、満足した絵がコンスタントに描けるようになるまで、数年間はそこに通いました。今回の展示では、「金山平三の夏」をテーマに、夏の写生地を描いた作品を展示します。



13.金山平三《山手(神戸)》1935年頃

同時開催の展覧会

阪神・淡路大震災20年展
東京・ソウル・台北・長春 官展にみる近代美術
6月14日(土)～7月21日(月・祝)

阪神・淡路大震災20年展
宝塚歌劇100周年記念
宝塚歌劇100年展 ―夢、かがやきつづけて―
8月5日(火)～9月28日(日)

阪神・淡路大震災20年展
だまし絵Ⅱ
10月15日(水)～12月28日(日)

横尾忠則現代美術館での同時開催

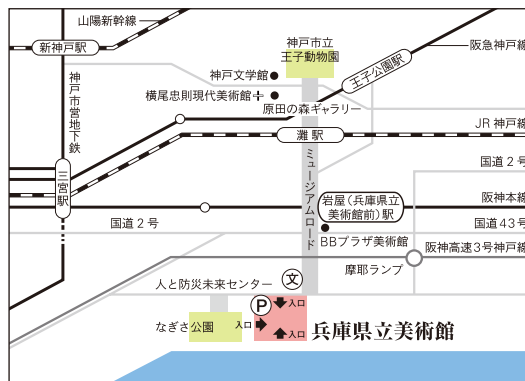
阪神・淡路大震災20年展
横尾忠則展 枠と水平線と・・・ グラフィック・ワークを超えて
7月12日(土)～9月28日(日)

阪神・淡路大震災20年展
記憶の遠近術～篠山紀信、横尾忠則を撮る
10月11日(土)～1月4日(日)

※特別展又は、県美プレミアムの有料チケット半券のご提示で、
団体割引料金でご覧いただけます。
(詳細はHPなどでご確認ください)

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分
JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
地下駐車場:乗用車80台収容・有料
*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



《館外作品を中心とした小企画展》

美術の中のかたち—手で見る造形 横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

《収蔵品によるテーマ展》

鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

2014年7月19日(土)～11月9日(日)

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	各画像演目・年・組名など	番号	各画像演目・年・組名など
1	横山裕一 《ふれてみよ④〈強風〉(別バージョン)》 2014年 © Yuichi Yokoyama	8	下村良之介《翼》1957年
2	横山裕一 《ふれてみよ②〈ミロ変貌〉》 2014年 © Yuichi Yokoyama	9	中西勝《豚のいる風景》1967年
3	横山裕一 《ふれてみよ④〈強風〉》 2014年 © Yuichi Yokoyama	10	横尾忠則《うろつき夜太 第11回 怒りと急所と》1973年
4	横山裕一 《ふれてみよ③〈望観〉のための ドローイング(3)》より(部分) 2014年 © Yuichi Yokoyama	11	山口啓介《水路—王の方舟》1990年
5	横山裕一 《ふれてみよ①〈花園〉》 2014年 © Yuichi Yokoyama	12	エミール=アントワヌ・ブールデル《母と子》1893年
6	横山裕一 《ふれてみよ⑤〈球体〉のためのドローイング(1)》 2014年 © Yuichi Yokoyama	13	金山平三《山手(神戸)》1935年頃
7	横山裕一 《ふれてみよ③〈望観〉》 2014年 © Yuichi Yokoyama		

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大5組10名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組 名分希望		

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)、URLなどを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。